

畜

産

1 畜 産

本市の畜産業は、都市近郊という立地条件を生かして経営の近代化、新技術の導入を積極的に行うなどして発展してきました。

高度経済成長期から経済の低成長時代に至って食肉の輸入自由化が行われるなど、消費の動向は低価格輸入肉への移行が進む中、国産食肉の生産量は横ばいであり、消費は食生活の変化により増加しています。

しかし、口蹄疫が平成22年4月から7月にかけて宮崎県の292戸の農家で発生したことや、豚熱（CSF）が平成30年9月に岐阜市で発生し、令和元年のワクチン接種開始後も令和2年度に5県5事例、令和3年度に7県14事例、令和4年度に5県9事例発生したこと、高病原性鳥インフルエンザが平成28年度に隣接の山県市で、令和2年度には県内美濃加茂市を含め全国18県で53事例、令和3年度に全国12道県で25事例、令和4年秋から令和5年春のシーズンは全国26道県84事例発生したことなど、家畜衛生を取り巻く情勢は未だ厳しく、すべての畜産農家が懸命な防疫対策を行っています。

こうした厳しい条件の中、需給体制の強化や消費者の食品に対する安全安心志向に合った良質な畜産物生産が、畜産経営の安定を図るための重要な課題となっており、この方向に沿った経営基盤の再構築、家畜排泄物の堆肥化（リサイクル）*などの環境対策を行い、畜産振興を推進しています。

※ 市内養鶏農家の鶏ふんの一部は、畜産センター公園の家畜ふんや市内公立学校・市立幼稚園・保育所の給食残さ等と混合し直営の堆肥化処理施設「エコプラント椿」で堆肥化。養豚・肉用牛農家の家畜ふんは防疫の観点から自家処理施設での処理を推進している。

○ 重要施策

1 経営の合理化と近代化

(1) 経営・流通対策

ア) 畜産共進会…岐阜市畜産共進会の後援、県共進会等への参加

(2) 指導対策

ア) 団体育成…畜産振興会の育成強化

(3) 環境対策

ア) 環境対策指導事業…環境問題の現地調査指導

(4) エコプラント椿事業

ア) 家畜排泄物等堆肥化

2 家畜防疫衛生対策

(1) 畜産衛生対策

ア) 各種疾病検査及び予防注射の実施

イ) 多発疾病防除事業の実施

(2) 家畜診療事業

(3) 家畜人工授精事業

(1) 乳 用 牛



生産コストの低減と経営の安定化を図るため、河川敷草地を共同利用した自給飼料の増産を推進し、優良精液による人工授精や受精卵移植により後継牛の確保に努めています。また、ワクチン接種及び畜舎消毒による疾病予防対策の実施、悪臭の防止、排泄物の管理適正化を図ることにより地域環境に融和した、新鮮で安全安心な牛乳の供給を目指した都市近郊型酪農を推進しています。

乳用牛頭数及び戸数の推移

令和5年2月1日現在

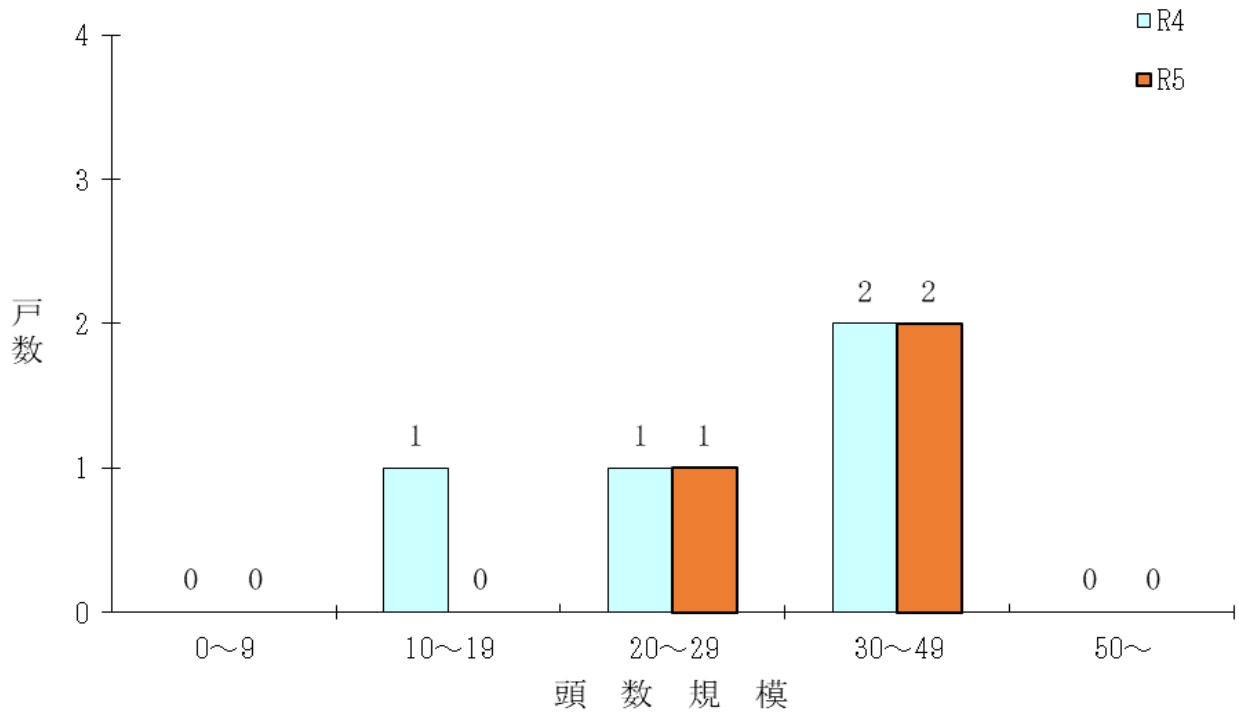
区 分 年	岐 阜 市				岐 阜 県			全 国		
	戸 数		頭 数		戸 数	頭 数		戸 数	頭 数	
	戸	%	頭	%	戸	頭	%	千戸	千頭	%
平成25	5	100	139	100	155	7,250	100	19	1,423	100
26	5	100	133	96	151	7,020	97	19	1,395	98
27	5	100	123	88	145	6,780	94	18	1,371	96
28	5	100	112	81	137	6,480	89	17	1,345	95
29	5	100	113	81	130	6,180	85	16	1,323	93
30	4	80	101	73	118	5,950	82	16	1,328	93
31	4	80	105	76	107	5,710	79	15	1,332	94
令和2	4	80	99	71	104	5,510	76	14	1,352	95
3	4	80	99	71	102	5,510	76	14	1,356	95
4	4	80	104	75	95	5,450	75	13	1,371	96
5	3	60	89	64	89	5,330	74	13	1,356	95

(注) 岐阜県・全国の数字は農林水産省畜産統計による。

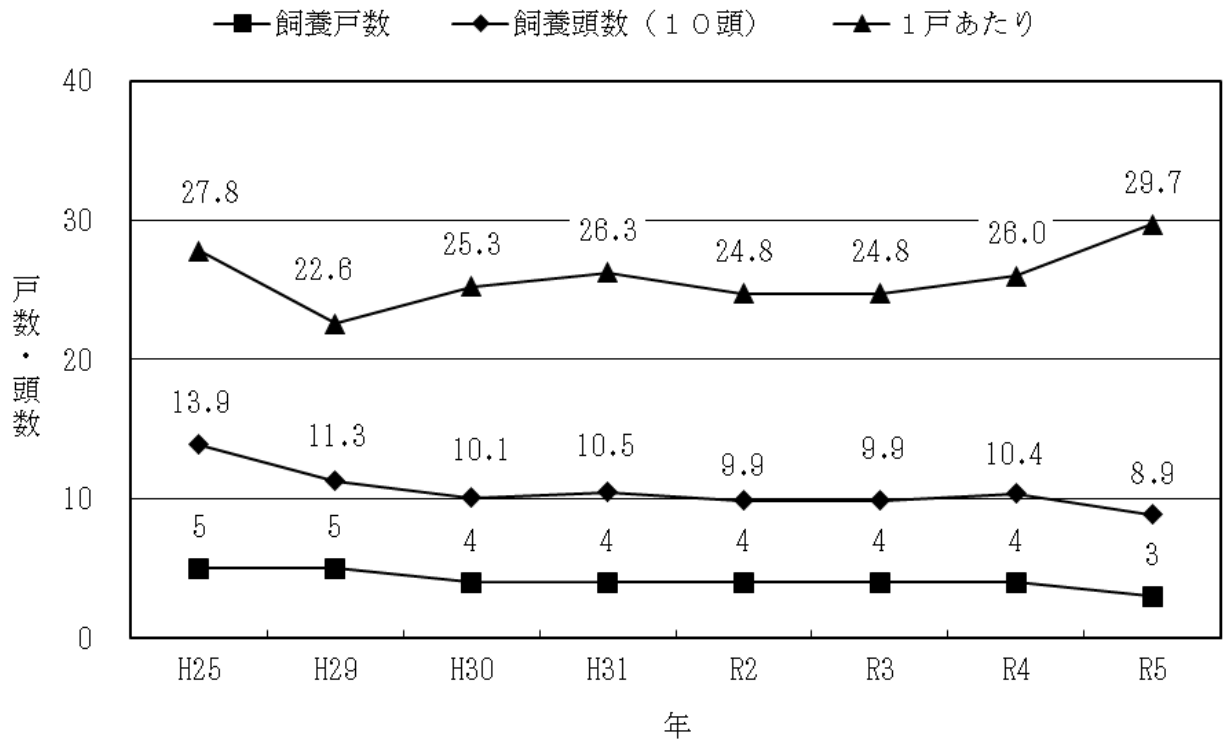
人工授精事業

年 度	27	28	29	30	R 元	2	3	4
授 精 件 数	261	289	271	286	269	230	259	196

乳用牛飼養規模別戸数



乳用牛飼養規模状況の推移



(2) 肉用牛



県内外の黒毛和牛主要産地から血統を重視した肥育素牛を導入する一方、自家繁殖による一貫生産も行われ、優れた肥育技術によって、県の銘柄牛「飛騨牛」の安定的生産に貢献しています。また、防疫衛生と環境保全を図り、肥育牛農家生産意欲向上と流通促進のための畜産共進会の後援、さらに家畜保健衛生所との定期的な巡回指導、先進地視察の実施により最新の肥育技術の導入を図り、経営の近代化と肉質の向上をめざしています。

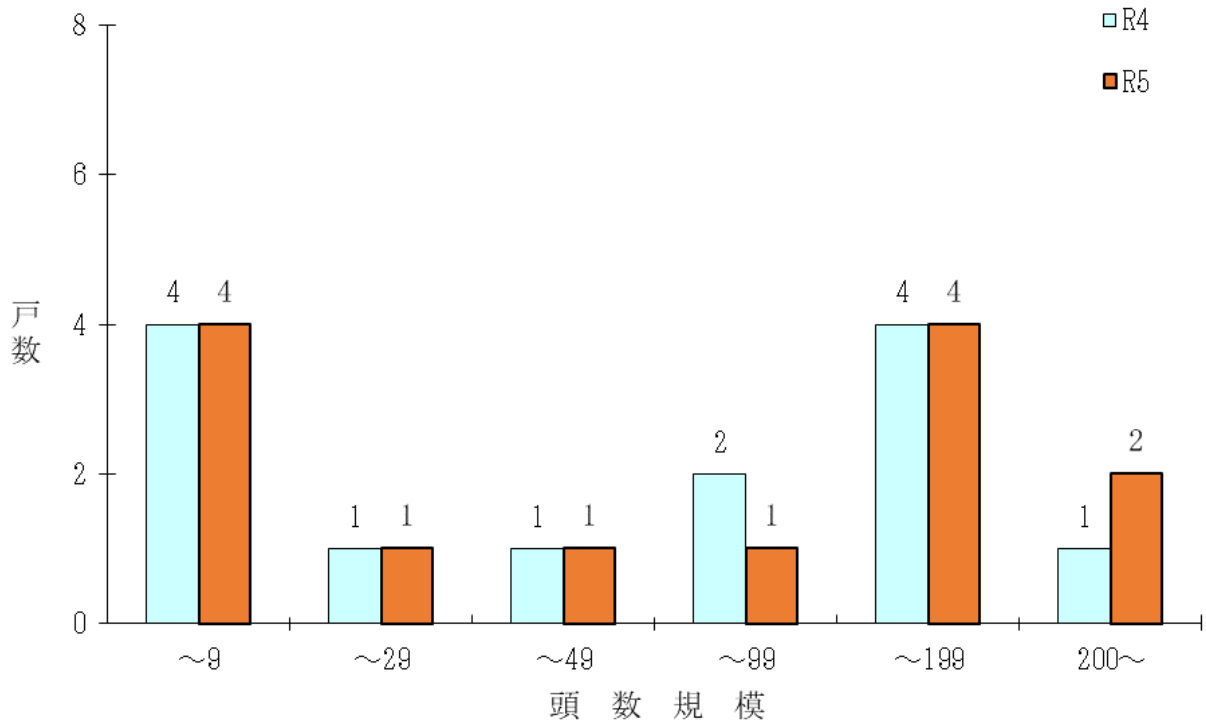
肉用牛頭数及び戸数の推移

令和5年2月1日現在

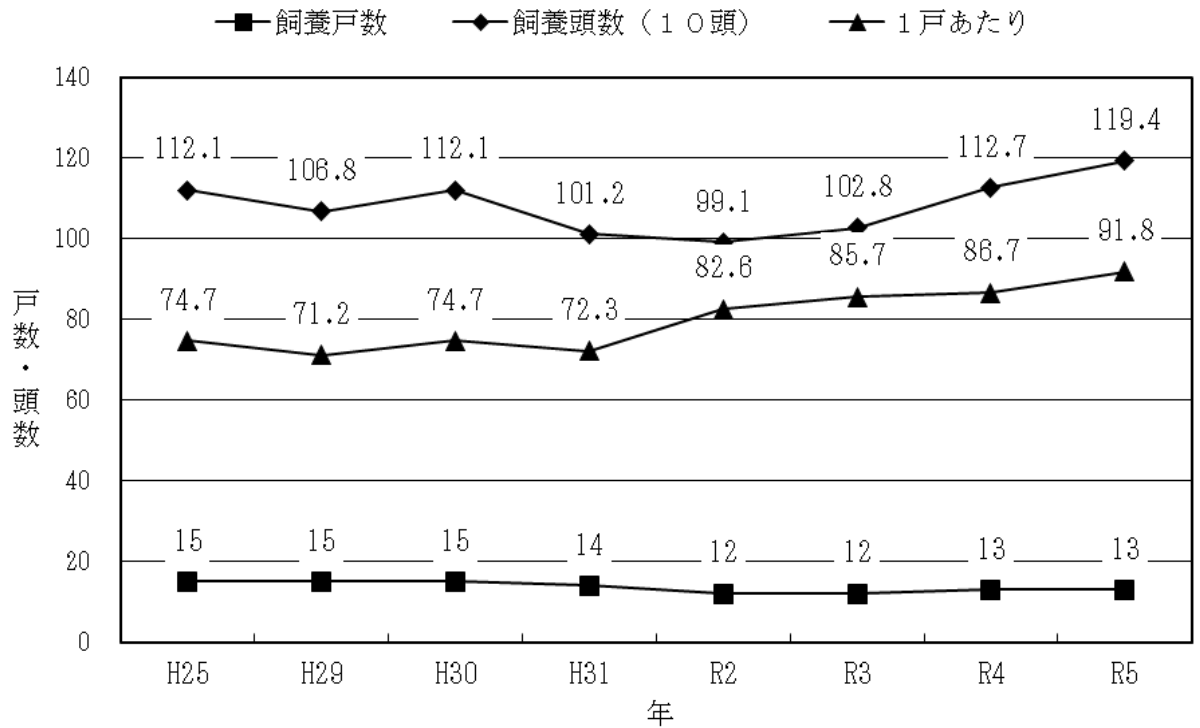
区分 年	岐 阜 市				岐 阜 県			全 国		
	戸 数		頭 数		戸 数	頭 数		戸 数	頭 数	
	戸	%	頭	%		戸	頭		%	千戸
25	15	100	1,121	100	611	34,500	100	61	2,642	100
26	15	100	1,118	100	593	33,800	98	58	2,567	97
27	15	100	1,063	95	578	32,100	93	54	2,489	94
28	15	100	1,029	92	533	31,400	91	52	2,479	94
29	15	100	1,068	95	525	31,600	92	50	2,499	95
30	15	100	1,121	100	512	31,800	92	48	2,514	95
31	14	93	1,012	90	497	31,300	91	46	2,503	95
令2	12	80	991	88	481	32,200	93	44	2,555	97
3	12	80	1,028	92	464	32,800	95	42	2,604	99
4	13	87	1,127	101	452	32,900	95	40	2,614	99
5	13	87	1,194	107	434	34,300	99	39	2,687	102

(注) 岐阜県・全国の数字は農林水産省畜産統計による。

肉用牛飼養規模別戸数



肉用牛飼養規模状況の推移



(3) 養 豚



飼料価格の高騰、海外からの伝染病の侵入、環境対策等、養豚経営を取り巻く環境は、年々厳しくなっています。

平成30年9月に、国内では平成4年以来26年ぶりとなる豚熱（CSF）が発生し、当時4戸中2戸の養豚農場で感染が確認されました。

こうした中で、市場競争力を高めるため、ビタミン等を加えた専用飼料を与えた銘柄豚肉「飛騨けんどん・美濃けんどん」、「美濃ヘルシーポーク」を生産することでブランド化を図っています。

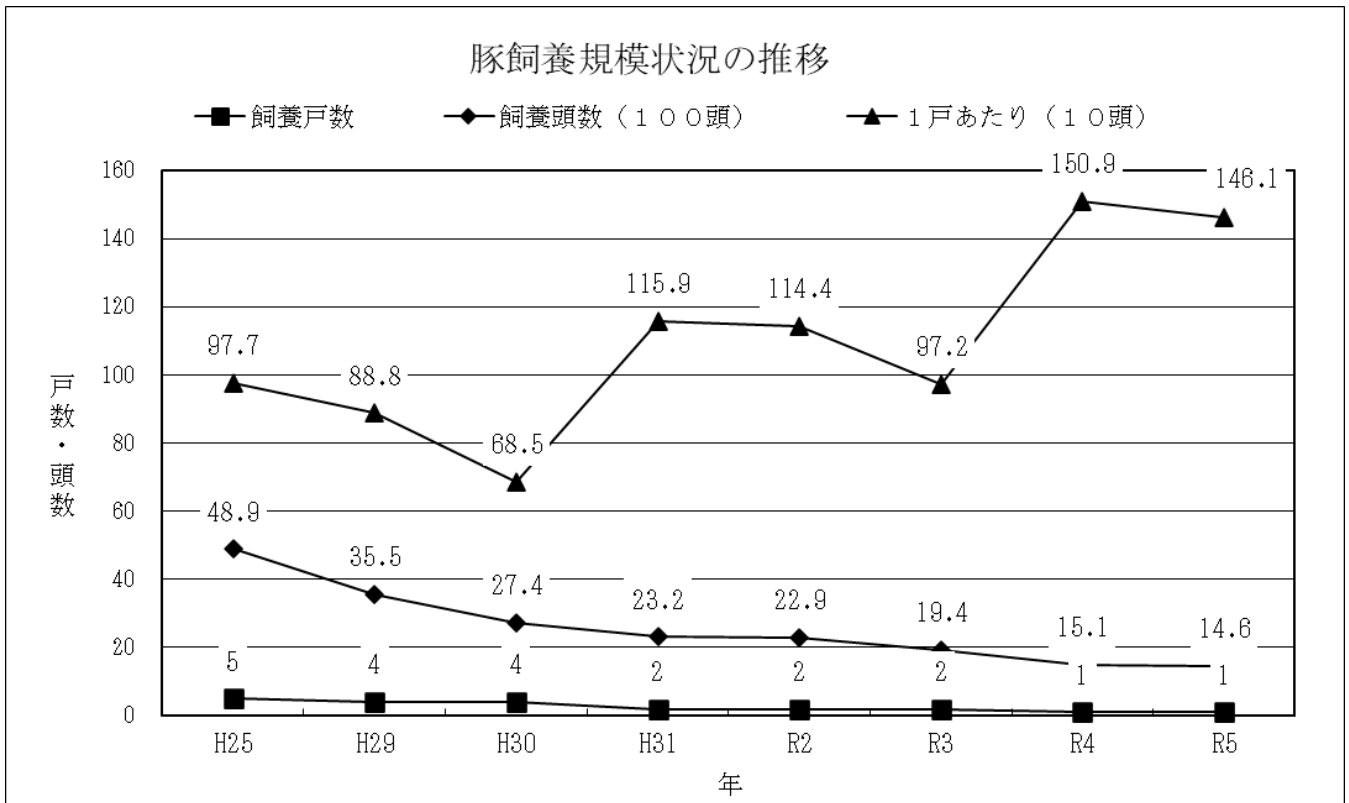
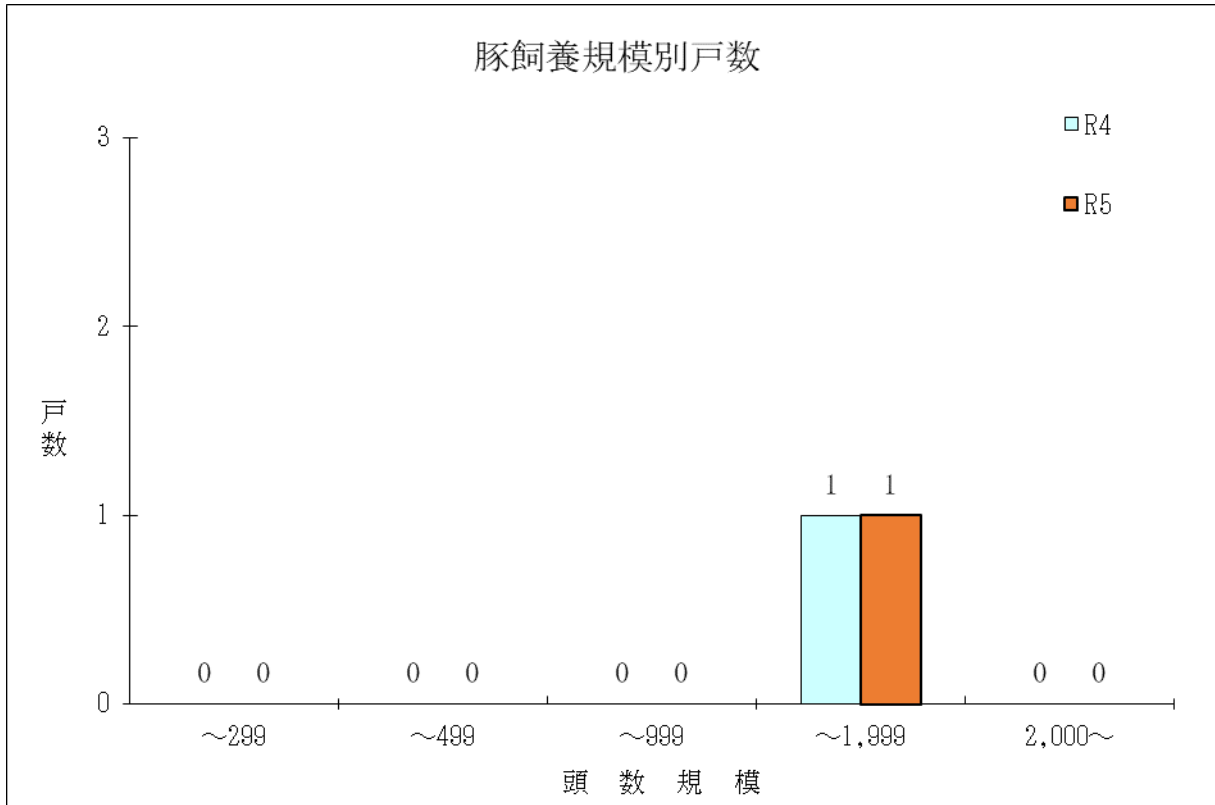
また、家畜の健康を守るため家畜診療、予防注射事業及び畜舎消毒事業等の防疫衛生対策により健康な豚の生産に努めています。

豚頭数及び戸数の推移

令和5年2月1日現在

区分 年	岐 阜 市				岐 阜 県			全 国		
	戸 数		頭 数		戸 数	頭 数		戸 数	頭 数	
	戸	%	頭	%	戸	頭	%	千戸	千頭	%
平成25	5	100	4,887	100	46	102,600	100	6	9,685	100
26	5	100	4,636	95	41	99,100	97	5	9,537	98
27	4	80	4,309	88	← (データなし(センサス年のため、調査を行ってない)) →					
28	4	80	4,229	87	40	105,100	102	5	9,313	96
29	4	80	3,553	73	40	110,300	108	5	9,346	96
30	4	80	2,741	56	40	106,300	104	5	9,189	95
31	2	40	2,317	47	32	99,800	97	4	9,156	95
令和2	2	40	2,288	47	← (データなし(センサス年のため、調査を行ってない)) →					
3	2	40	1,944	40	27	79,800	78	3	9,290	96
4	1	20	1,509	31	27	89,700	87	2	8,949	92
5	1	20	1,461	30	28	98,100	96	3	8,956	92

(注) 岐阜県・全国の数字は農林水産省畜産統計による。



(4) 養 鶏



採 卵 鶏 鶏 舎

本市は、初生ヒナの生産地として全国的に知られています。

都市圏内の養鶏として、鶏卵の高品質化や、銘柄商品など特殊鶏卵の開発・研究に努め、経営の基盤整備を図り、さらに疾病に対する各種予防注射の実施等防疫衛生対策を推進することにより経営の安定と近代化を図っています。

鶏の羽数及び戸数の推移

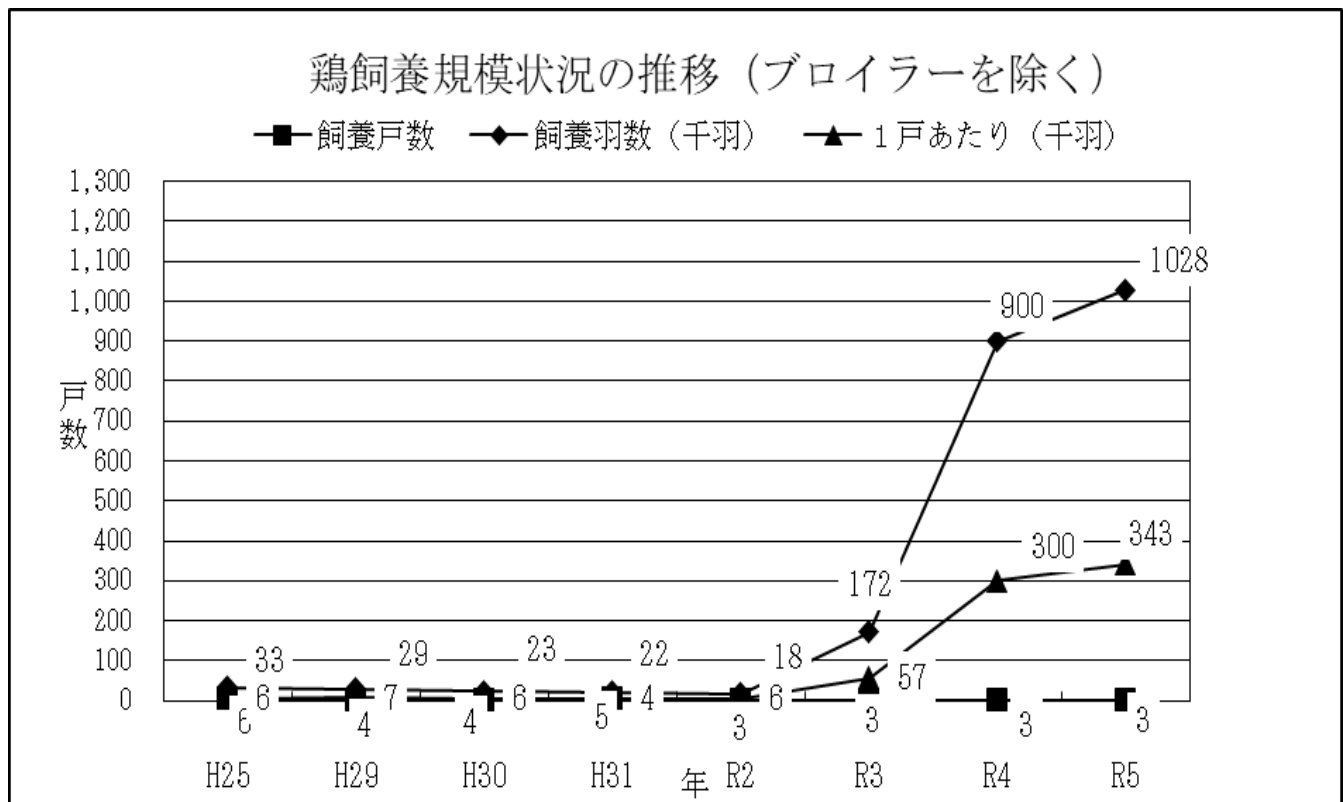
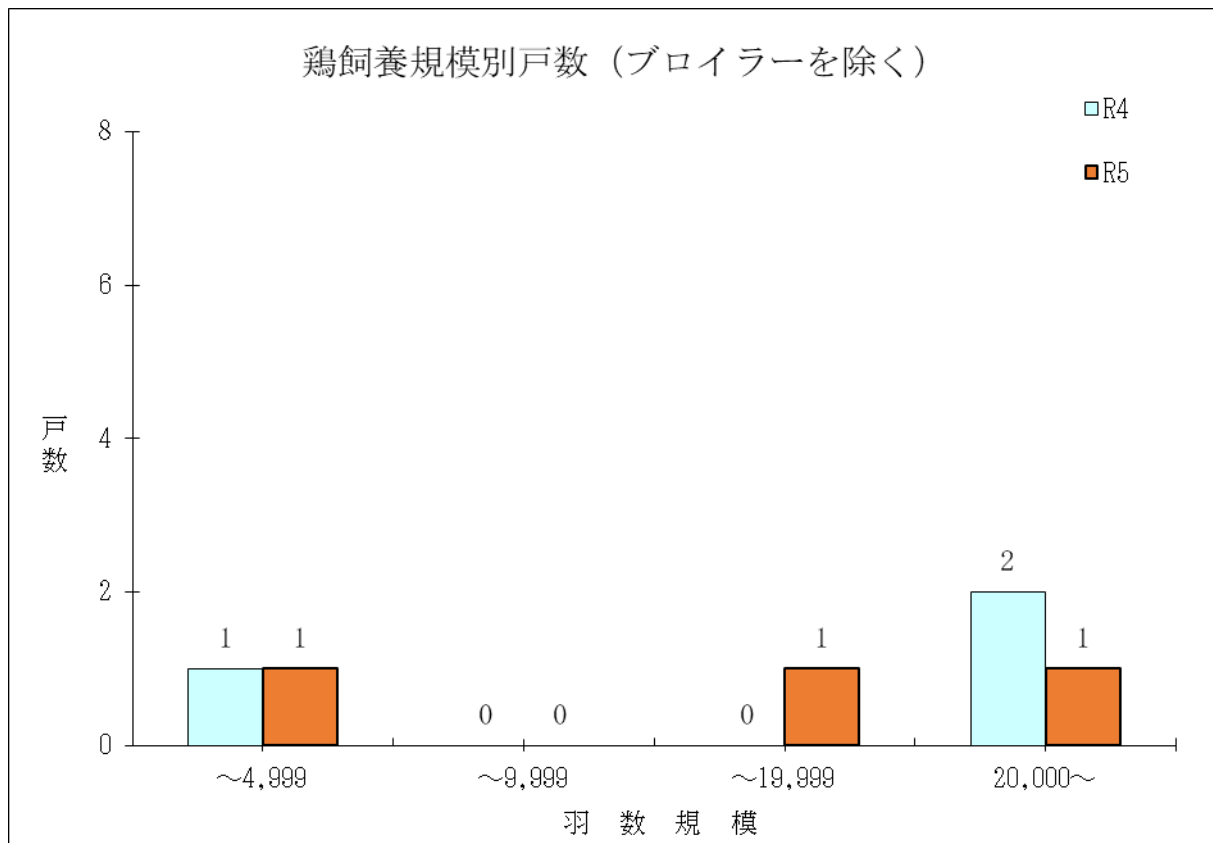
令和5年2月1日現在

区 分 年	採 卵 鶏 (種 鶏 を 含 む)									ブロイラー			
	岐 阜 市				岐 阜 県			全 国		岐 阜 市			
	戸 数		羽 数		戸 数	羽 数		戸 数	羽 数		戸 数	羽 数	
	戸	%	千羽	%		千羽	%		千羽	千羽		%	戸
平成25	6	100	33	100	97	5,258	100	3	172,238	100	1	24	100
26	6	100	34	103	92	5,170	98	3	172,349	100	1	0	0
27	6	100	36	109	← (データなし(センサス年のため、調査を行ってない)) →					1	0	0	
28	5	83	31	94	79	5,077	97	2	173,349	101	1	0	0
29	4	67	29	88	76	5,088	97	2	176,366	102	1	0	0
30	4	67	23	70	74	5,264	100	2	181,950	106	1	0	0
31	5	83	22	67	69	4,867	93	2	182,368	106	1	0	0
令和2	3	50	18	55	← (データなし(センサス年のため、調査を行ってない)) →					1	0	0	
3	3	50	172	521	50	4,669	89	2	180,918	105	1	0	0
4	3	50	900	2,727	49	4,945	94	2	180,096	105	1	26	108
5	3	50	1,028	3,115	59	5,544	105	2	172,265	100	1	0	0

(注) 岐阜県・全国の数字は農林水産省畜産統計による。

(注) 岐阜県・全国の採卵鶏の戸数・羽数に種鶏の戸数・羽数を含まない。

(注) 鶏(鶏肉)の飼養頭羽数が0羽となっているのは、調査時点で出荷が完了しているため。通常は約30,000羽を飼養している。



主要家畜地区別飼養戸数及び頭羽数

令和5年2月1日現在(属地)

区分 地区	乳用牛		肉用牛		豚		鶏	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
黒野	1	22	1	6			1	1,256
網代	1	33	8	959	1	1,461		
方県			2	205			2	18,000
西郷								
合渡								
三輪							1	1,009,369
常磐								
岩野田								
鷺山								
則武								
早田								
市橋	1	34	1					
岩								
柳津			1	24				
合計	3	89	13	1,194	1	1,461	4	1,028,625

(5) 養 蜂



本市の養蜂は、温暖な気候と最良の蜜源であるレンゲに恵まれ、養蜂の先進地として発展してきました。しかし、農業の近代化と構造の変化によって、レンゲの栽培面積は激減し、これを回復させるため養蜂部会と関係機関が一体となってレンゲ播種事業と蜜源樹木の植栽事業を推進してきましたが、害虫や自然環境の変化によって全国的に花が咲かない等の被害が出ており、国・県・関係団体が、対策方法の確立をめざしています。また、経営基盤確立のため柿・イチゴ生産農家と連携し、ポリネーション事業の定着、拡大を図っています。

みつばち飼育群数及び戸数の推移並びに養蜂振興事業の推移

令和5年3月31日現在

区分 年	岐 阜 市				花粉交配用貸蜂		レンゲ播種 栽培面積 h a
	戸 数		飼育群数		施設園芸 (イチゴ)	果樹園芸 (柿)	
	戸	%	群	%	群	群	
平成25	43	100	1,974	100	132	116	272
26	51	119	1,891	96	134	115	261
27	49	114	1,783	90	133	106	254
28	14	33	908	46	108	94	241
29	9	21	481	24	114	94	214
30	9	21	487	25	100	94	190
31	11	26	580	29	88	90	135
令和2	11	26	492	25	79	89	111
3	12	28	354	18	77	90	89
4	11	26	481	24	73	86	76
5	11	26	391	20	—	—	—

(6) 団 体

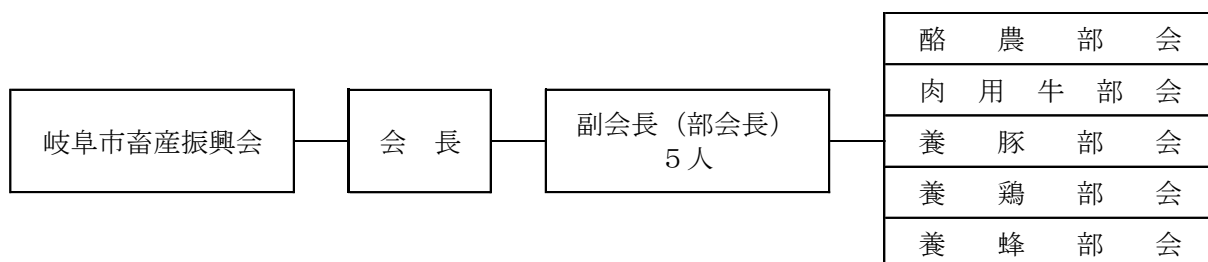
○ 岐阜市畜産振興会

設立年月日 昭和39年5月27日

事務局 岐阜市秋沢402

概 要 本会は、酪農、肉用牛、養豚、養鶏、養蜂の経営農家ごとで組織する5部会をもって構成し、本市の畜産振興に関する諸施策を審議するとともに、それに基づく各種事業の円滑な推進を図るための活動を行っています。

組織系統図



(7) 家畜排泄物等堆肥化处理施設

(施設名) エコプラント椿

(所在地) 椿洞813番地3

(建物面積) 1,463.83㎡ (管理棟・製品保管庫含む)

(処理能力) 10t/日

(処理方法) パドル式発酵槽

(堆肥化原料) 鶏ふん(農家)、家畜ふん(畜産センター公園等)、学校等給食残さ等

(竣工) 平成12年3月

令和4年度 実績	原料受入	1,089t	(令和3年度 1,153t)
	たい肥生産量	367t	(令和3年度 351t)
	たい肥販売量	352t	(令和3年度 335t)

